地形・地質にかかわるアイヌ語地名とその教材としての活用

－海岸地域における地形・地質の検討－

松田義章

北海道に広く分布しているアイヌ語地名には，地形・地質にもとづいて命名されているものが多い。地学の学習における地域素材の活用という視点から，おもに海岸地域において特徴的な地形・地質にかかわるアイヌ語の事例を取り上げ，その教材性について検討した。

［キーワード］　理科　地学　アイヌ語地名　地形　地質　海岸

1　はじめに

北海道には，アイヌ語に由来する地名が広く分布している。自然と共存し，その恵みを巧みに活用して生活を営んでいたアイヌの人々の命名した地名の中には，地形・地質に注目したものが多く含まれている。例えば，札幌という地名はサト・ポロ・ペッ，すなわち，乾いた川の意味で命名されたものであり，水はけのよい土地の特性に注目したものである。これは，おもに砂れき層によって構成された扇状地堆積物によって成り立っている土地の地質を端的に示したものであるといえる。一方，北海道内においては，似たような地形・地質を示す土地には同じ地名（アイヌ語起源の地名）がつけられていることが多い。

小論においては，これらのアイヌ語地名の特性を踏まえて海岸地域の地形・地質にかかわる地名の由来を探り，その意味の解釈例の検討を通して，地域の土地のつくりと生い立ちを探る学習を行うための基礎的資料を提供する。

2　アイヌ語地名とその教材としての活用

地形を表すアイヌ語として代表的ものとして，山を表すヌプリやシル，川を表すナイとペッ，海を表すアトイなどがよく知られている。これらの地名にポン（小さい）やポロ（大きい）等の形容詞がつくと，ポンペッ（本別）やポロペッ（幌別）という地名となる。また，札幌市内に豊平という地名があるが，これはトイ・ピラで「崩れる・崖」の意味のアイヌ語である。この地域の地形・地質の学習に当たっては，そのトイ・ピラはどんな意味で，その崖は具体的にどの崖をさし，さらに，その崖はどんな地形や地質なのか調べるというような学習の展開が考えられる。すなわち，地名からその土地の命名の由来を探り，さらに，野外学習によって，その土地の地形・地質の特性と生い立ちを調べるという学習のために，アイヌ語地名は教材として有効に活用することができる。

3　岩石海岸に特徴的なアイヌ語地名

地形・地質にかかわるアイヌ語は，特に海岸や川に関連したものが非常に多い。ここでは，海岸付近の地形にかかわるものを取り上げてみた。

海岸地形は、岩石海岸と砂浜海岸とに大きく分けられる。

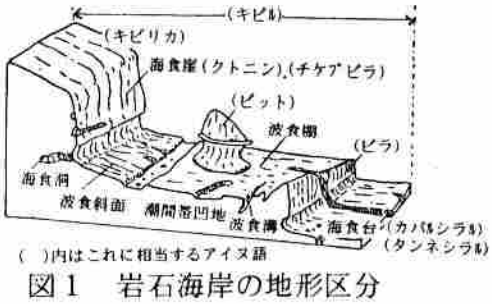

図１　岩石海岸の地形区分

北海道立理科教育センター

このうち，岩石海岸を示す特徴的な地形として岬がある。北海道においては，特に優れた自然景観を有する岬が多いが，岬を表すアイヌ語としてエンルム，エサン，エサシなどがある。これらはそのままエンルム岬，えりも岬，恵山，江差という地名となっている。この他，岬を示すアイヌ語として，エンコル，エサムペ，エサウシ，エンコル，エサンケ，エサンクプ，エサンノッ，エサムペ，エサンノッ，エサウシ，エトウ，エトノッ，ノッ，ノッケ，ノトル等がある。さらに，岬を示すアイヌ語には，シリパ（シリ＝山，パ＝頭）があり，これも北海道各地のシリパ岬，尻羽岬等の地名となっている。

一方，図2のように岬の先端へ向かって標高が高くなっているような形状をもつ岬に対しては，ヘテスベシという地名がつけられることが多い。このような地形の岬は，海側からの側方圧縮の地殻変動を受け傾動によって形成された岬であると考えられる。

図2　傾動地形を示す岬の形状

なお，岩石海岸にはソヤという地名が多く認められる。これは岩礁の多いところという意味であり，日高海岸の庶野や宗谷はこれに当たる。この他，海岸の水底に群在する岩礁を示すものとしてシラルというアイヌ語があり，これにカパル（平べったいという意味）という語がついてカパルシラルという地名が多く認められる。積丹半島の川白をはじめとして，海に臨んで，いわゆる千畳敷と呼ばれる表面のたいらな岩をもつ海岸には，このような地名が多い。

なお，海岸段丘状の地形にはキピル，またその段丘面に相当する平地にはキピリカという地名が多くつけられている。さらに，段丘崖に対しては，クトニンという地名がよくつけられる。

一方，段丘崖を初めとする岩石海岸を構成する崖には，ピラやチケプピラなどの地名がつけられている。ピラとは，土が崩れて地肌の表れている崖を表すアイヌ語であり，このような地名のところでは，その土地を構成する地質や岩石がよく観察される。チケプピラは，とくに切り立った崖を示し，室蘭の地球岬の断崖はこの語に由来する。なお，大規模な断崖絶壁を示すところにはアイカップ（不可能という意味）という地名が付けられていることがある。雄冬や小樽西部海岸のアイカップ岬，厚岸の愛冠岬などはまさに通行が不可能な断崖絶壁の地である。

なお，岩石海岸となっている地域では，ウカウプ，ウカウシ，ウカウ等の地名が認められる。これらの地名は，岩石が積み重なっている産状を呈している場合につけられていることが多い。また，トイ・イキルという場合には明確に層状を呈していることが多い。

また，トイという語は土を示すアイヌ語であるが，トイ及びチエトイ（我ら・食する土の意味）という地名がつけられてところは，ケイ藻土あるいは凝灰岩が風化作用によって粘土化した土（ベントナイト）によって構成されている地層が露出するところであることが多い。ケイ藻土や凝灰岩によって構成されている地層は，白色を呈することが多いので，レタルピラ（白い崖）という地名となっていることもある。

この他，地質を表すアイヌ語としては，軽石を示すスシルプやシピルプ，また，火山灰を示すものとしてウナ等があり，これらが地質を表す地名として用いられている例がある。

これらの他に，海岸の岩を示すピット，岩石を示すポイナ及びシュマがあり，石浜のれきを示すものとしてはタクタク（ごろた石，玉石の意味）等がある。

一方，岬の陰になっているような波静かな入り江や湾に対しては，モイ，ウシ，ウソル 等地名がつけられていることが非常に多い。この他，舟が入るのに適した地形条件を有するような入り江は，トマリという地名となっていることも多い。北海道の海岸各地に存在する～泊という地名がこれに該当する。なお，小樽や室蘭など

には祝津という地名がある。これは，シクトゥウシで，「全くの・岩崖・群生する・場所」という意味である。両地域の海岸では岬が連なり，ともによく似た地形景観を示している。

4　砂浜海岸に特徴的なアイヌ語地名

砂あるいは砂浜を示すものとして，オタというアイヌ語がある。これは，ウタとなまり，歌や宇多などの漢字が当てられた地名となっていることが多い。砂浜海岸については，一般に図2のような地形区分がなされている。

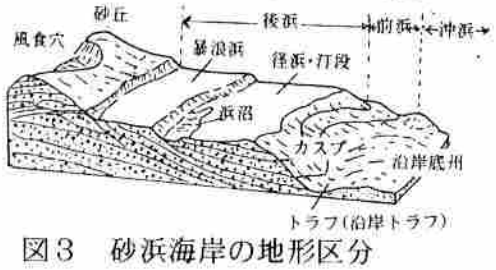

図3　砂浜海岸の地形区分

アイヌ語では砂浜を，波のためいつもぬれている波打ち際のペトタ及びいつも乾いているサトタにおおまかに区分する。このほか，図4のように，アイヌ語地名には，現在の地形学的な砂浜の地形区分にほぼ対応するような地名の区分が存在する。

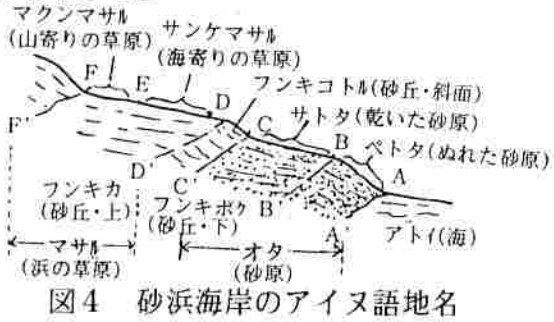

図4　砂浜海岸のアイヌ語地名

5　おわりに

北海道に広く分布している地形・地質にかかわるアイヌ語地名のうち海岸地域に特徴的なものについて取り上げてみた。

明治の日本地質学の先覚者であるB.S.ライマンや神保小虎（道庁技師，後の東大鉱物学教授）は，北海道の広域的地質調査の際に，北海道におけるアイヌ語地名と地形や地質とのかかわりに注目した。彼らは，アイヌ語地名がどのような地形・地質の規則性に注目してつけられているかを経験的にとらえ，それを踏まえて地質調査を効率的に進めることにより，多大の成果を収めた。これら先人の経験に基づく知恵や歴史的遺産を踏まえつつ，その体験に根ざした知恵を学ぶことが，今強く求められている。

現在，身近な地域の自然の教材化の必要性が指摘され，人間と環境とのかかわりを重視した理科教育の重要性が強調される中にあって，人間と環境とのかかわりの中で獲得した知恵にもとずいて命名されたアイヌ語地名は有益な理科の教材である。

土地のつくりと生い立ち探る地形・地質の学習において，身近な地域素材の活用という視点からアイヌ語地名を取り上げ，その地域の地名の由来を探ることから学習を始め，さらに野外実習による地形・地質の学習へ発展させるような授業プランの設定が考えられる。小論では，海岸において特徴的に見られるアイヌ語地名について触れるだけにとどまったが，是非，学校及び周辺地域に残っているアイヌ語地名についても広く教材として活用していただきたい。

参考文献

1)知里真志保(1956)：アイヌ語入門　　楡書房
2)知里真志保(1956)：地名アイヌ語小辞典　楡書房
3)神保小虎(1890)：北海道地質略論　北海道庁
4)神保小虎(1892)：北海道地質報文　北海道庁
5)ライマン(1878)：北海道地質総論　　開拓使
6)永田方正(1891)：北海道蝦夷語地名解　北海道庁
7)福岡イト子・松田義章(1995)：北海道における地形・地質にかかわるアイヌ語地名の研究Ⅰ　北海道考古学会誌（投稿中）
8)町田貞編(1981)：地形学辞典　　二宮書店
9)松浦武四郎(1870)：西蝦夷日誌　四編
10)山田秀三(1984)：北海道の地名　北海道新聞社

（まつだ　よしあき　地学研究室研究員）